

2019年2月7日

各位

UTグループ株式会社
(証券コード：2146)

2019年3月期第3四半期連結決算
営業利益は前年同期比66.2%増の58億円
～収益性が改善し通期業績予想を上方修正～

2019年3月期第3四半期連結累計期間の業績は、売上高755億円（前年同期比25.8%増）、営業利益58億円（前年同期比66.2%増）、四半期純利益38億円（前年同期比69.6%増）、一株当たり四半期純利益96.34円（前年同期比60.3%増）、技術職社員数21,042名（前年同期比16.9%増）となりました。

主力のマニュファクチャリング事業の好調に加えて、ソリューション事業、エンジニアリング事業においても順調に規模が拡大しており、すべてのセグメントで増収増益となりました。

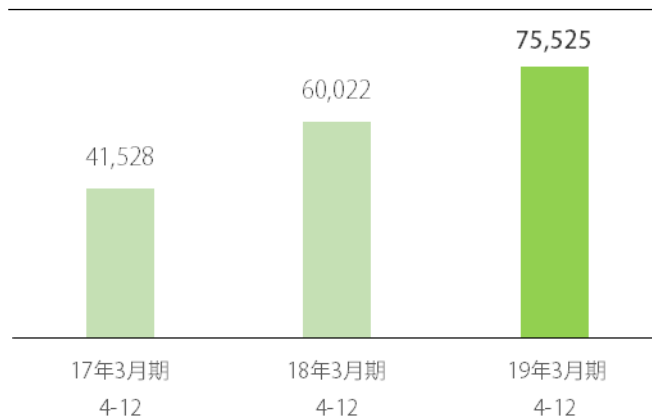
主な業績指標の推移

(百万円)	18.3 4-12	19.3 4-12	増減率
売上高	60,022	75,525	25.8%
EBITDA	3,916	6,320	61.4%
営業利益	3,538	5,879	66.2%
四半期純利益	2,293	3,889	69.6%
一株当たり四半期純利益 [円]	60.10	96.34	60.3%
技術職社員数 [名]	17,999	21,042	16.9%

※「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」を記載しています。

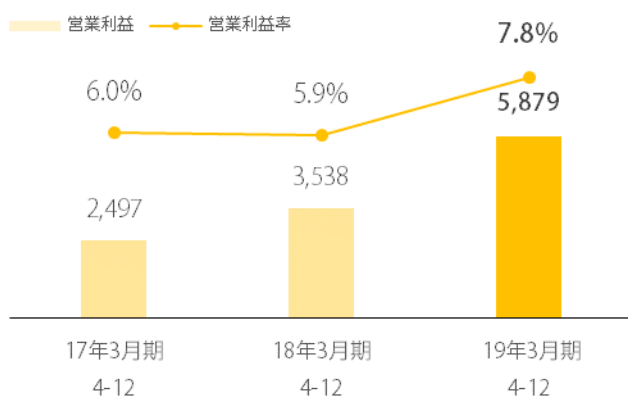
売上高推移

[百万円]



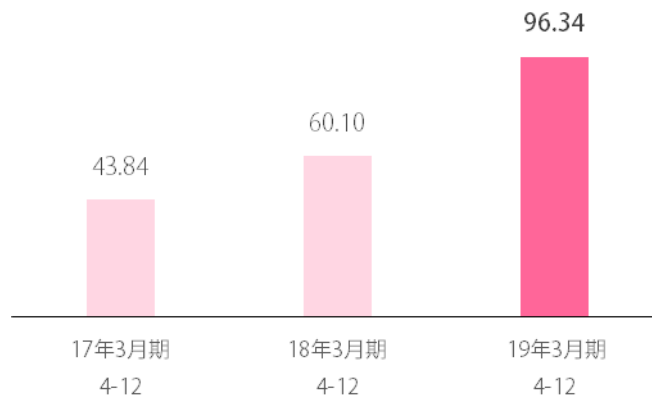
営業利益推移

[百万円]



一株当たり四半期純利益推移

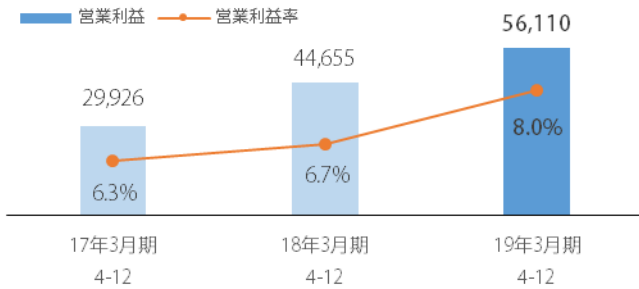
[円]



セグメント別業績

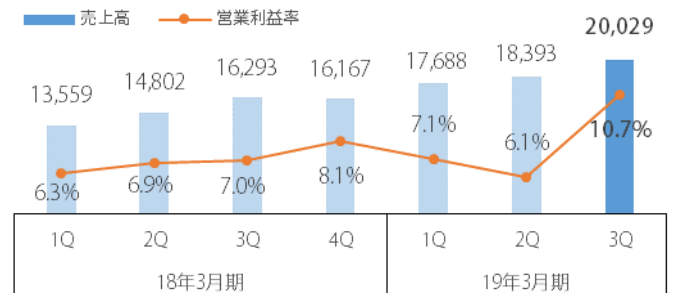
マニュファクチャリング事業

前年同期比



- ・自動車関連分野を中心に期間工から派遣への切替え需要が好調
- ・高単価・大口案件への集約が進み営業利益率が改善

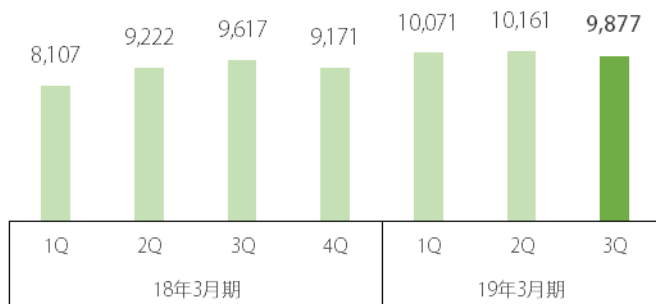
前四半期比



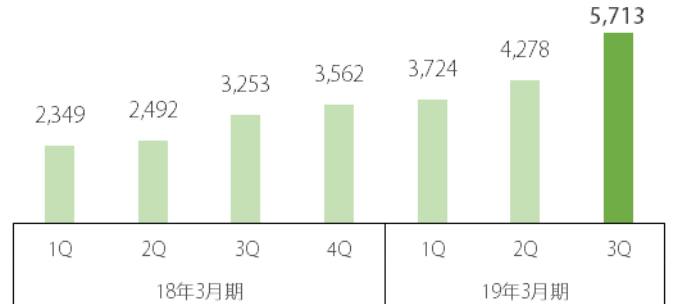
- ・半導体・電子部品関連分野の需要は引き続き踊り場局面が継続する一方で、自動車関連分野での派遣需要は好調が持続
- ・採用効率の改善、募集費の抑制により営業利益率が大幅に改善

分野別売上高推移

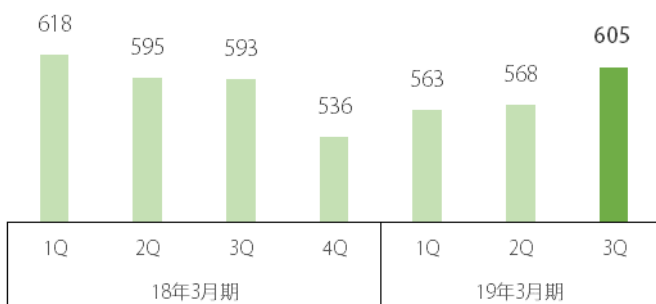
半導体・電子部品関連分野



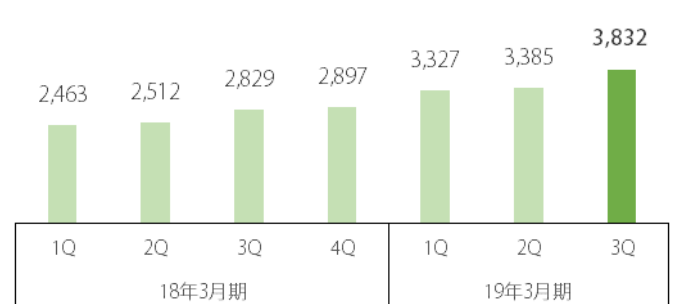
自動車関連分野



住宅分野

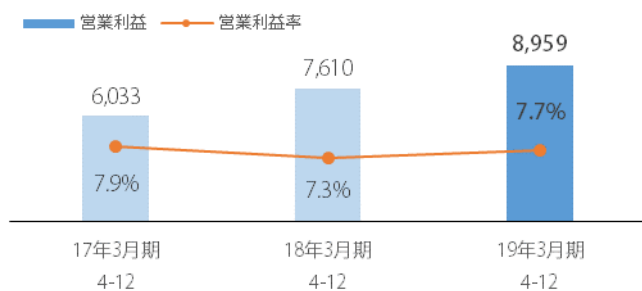


その他分野



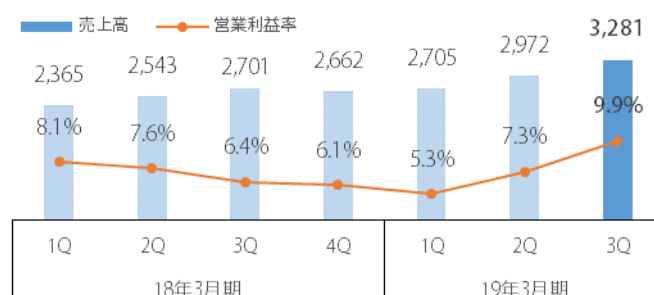
ソリューション事業

前年同期比



- ・前期に立ち上げたUTHPの収益が安定化したことに加え、今期より立ち上げたFUJITSU UTが寄与し売上高が増加
- ・社員数の増加により収益性が改善し、営業利益率が向上

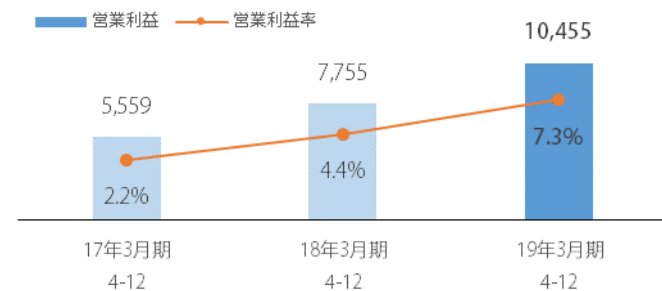
前四半期比



- ・顧客企業からの転籍が進み社員数が増加したことにより、売上高が増加するとともに収益性が改善

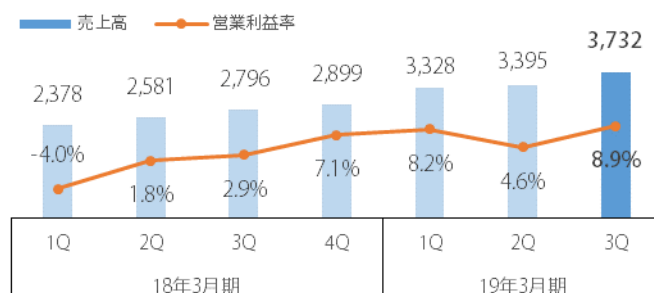
エンジニアリング事業

前年同期比



- ・新卒採用、グループ内転職制度「One UT」により技術職社員数が増加し、増収を達成
- ・営業管理体制の見直し、子会社の統合等により収益性が改善

前四半期比



- ・第3四半期では、19年新卒採用にかかるコスト負担が減少したため営業利益率が改善

今後の見通し

主力のマニュファクチャリング事業では、半導体・電子部品分野において、スマートフォン需要の減退や米中貿易摩擦等の影響により一部顧客の生産計画の見直しの動きもあり、派遣需要の停滞が当初の想定より長期化するなど不透明な事業環境が継続することが予想されます。一方で、自動車関連分野においては期間工から派遣社員への切り替え需要が引き続き強く見込まれていることに加え、高単価・大口案件への集約が進んだことから収益性が改善傾向にあること、またソリューション事業およびエンジニアリング事業においても好調な事業環境の継続が予想されることなどから、当初計画よりも利益面での上振れを想定しております。

なお、決算の詳細および業績予想の修正については、当社ホームページに掲載の「決算短信」、「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

<https://www.ut-g.co.jp/ir/library/index.html>

本件に関するお問い合わせ先

社長室IRユニット 小池 TEL: 03-5447-1710